

# 乙 貞

第11号 (通巻第3巻第3号)

1983年8月31日 発行

守山市立埋蔵文化財センター発行  
(TEL) 0775-85-4397

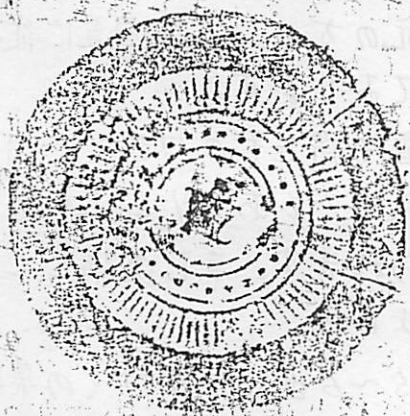
守山市服部町18/8番地

(TEL) 524-02

## 速報 銅鏡みつかる!

守山で15年程前に銅鏡(こがほうせいじやうもんしゅじんきやう)(小型仿製重圈珠文鏡)がみつかったことが最近わかりました。

これは、金森町享高満寺にお住いの西村悟一郎さんからお持ち下さったもので、製作業中に発見されたそうで、土師器の壺の中に、この鏡を「いた」と考えられる砥石といっしょに入っていたそうです。残念ながら、壺は大変にもろい土器で取り上げられなかったとのこと。この銅鏡の大きさは、直径5.4cmと小型のものです。砥石の大きさは全長9.9cm、最大幅4.3cmで、2つの面に磨いた痕がみられました。



小型仿製重圈珠文鏡の写真(上)と

拓影(左上)、断面実測図(左)です。

拓影、実測図は、実物大です。



この鏡は仿製鏡で中国で漢の時代につくられたものを模造し、日本で鋳造したもので、鏡の文様から重圈珠文鏡と呼ばれるものですが、単に重圈鏡とか珠文鏡とか呼ばれることがあり、ほうざかしませんので、ここでは、重圈珠文鏡と呼んでいます。

鏡というものは現在では姿を映し見るために使われていますが、古代においては、村の祭器であり、また村の首長の権威のシンボルとし

て使われていたと考えられる貴重なものでした。

この鏡は、古墳時代中頃（今から約1500の年前）のものであると思いますが、これが見つかったことから、その頃、金森町にあった村の首長が使ったと考えられる、貴重な資料です。

このような鏡の出土はあまりなく、守山市では、服部遺跡で1点み  
つかり、金森町で出土したもので2点目です。

### ≪発掘調査だより≫

守山市では、4カ所（下長・古高・南中学用地）・金森東・横江  
遺跡）で発掘調査を行っていましたが、その内、下長・古高遺跡の調  
査が8月末に終了しましたので、調査担当者より調査の概要をお告  
げします。

#### ≪下長遺跡発掘調査終了！≫

古高町に所在する下長遺跡の発掘調査は8月31日に埋め戻し作業を  
終えて、すべて終了しました。関係者、地元の方々、また調査に従事  
した人々の理解と協力によるものと感謝しております。

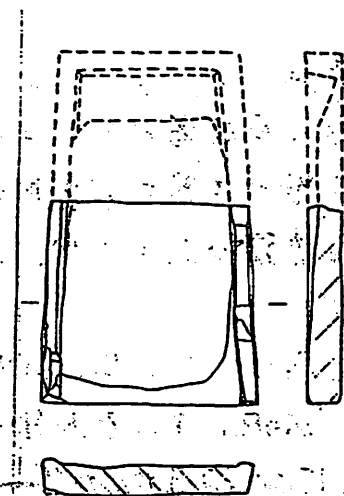
さて、5月中旬より8月末までの発掘調査で得たものは多く、出土  
品としては、多数の土器、木器、木製品や果下でもあまり出土例のな  
い「素文鏡」<sup>すもんきょう</sup>と呼ばれる鏡2点などが挙げられます。また遺構として  
は、掘立柱建物や溝の跡など多くを検出しました。

検出遺構と出土品から、今回の調査地は5～6世紀にかけての集落  
跡が中心となっているようですが、弥生時代終り頃の溝も見つかり、  
いることから、調査地周辺には、弥生時代の人々の生活跡が包蔵され  
ている可能性が大きいと言えます。また「素文鏡」の出土で、調査地  
において、何らかの儀式が行われたことも明らかになりました。その  
他、木の根の跡や土の堆積から、それ以前は、木々の生茂ったところ  
であったことも想像することが出来ます。

今後、発掘調査で得た貴重な資料をもとに、下長遺跡の解明を進め  
ていきたいと思っております。

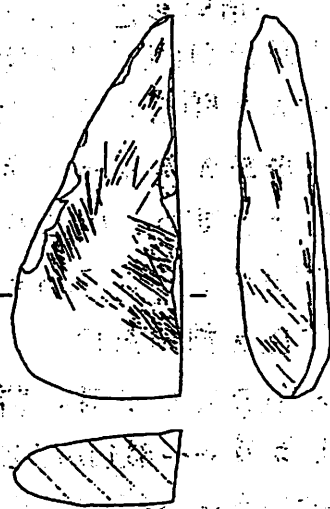
# —— 市中学校用地内の埋蔵文化財調査の結果——古高遺跡——

7月から校舎等の建設工事に先立って発掘調査も実施していましたが8月31日で夏期分を終えることができました。先ず、校舎部分では旧野洲郡と栗太郡の境をなしている条理制地割の溝が検出され、溝内から9～13世紀の土器や牛骨が出土しました。その他では6～7世紀の水田跡、4世紀の溝が全面で検出されました。体育館部分では校舎から続いてくる4世紀の溝が2条みられ、大きな流れのあることがわかりました。中学校用地の北端に付け替えられる吉川川の予定地では、古墳時代初頭の方形周溝墓とその木棺、そして12～13世紀の集落跡がた規模にひろがることが判明しました。この集落では中国からの輸入品である青磁、白磁に加え、幅2mの調査で石製の硯が2点、土師器や黒色土器が約1000点以上と密集した集落の一部を証明しました。ただ、この新しい集落は、金森町城ノ上田地一帯に発見された金森遺跡と一帯で、条理制が施行されて形成された村と考えられ、現在の金森町の前身の村と思われます。



← 石製 硯の  
実測図で、実物の  
1/2の大きさです。  
この硯は南中  
校用地内から出  
したもので、鎌倉時  
代のものです。

硯石 →  
実物の1/2の大き  
さの実測図です。  
金森町で出土  
した鏡と蓋の中  
から見つかりました。



## —— 現場説明会開催 ——

発掘調査が終了しました下長遺跡で、8月6日(土)に、調査現場を実際に見て、どのような遺跡なのかを知って頂くため、現場

説明会を行いましたところ、多数の見学者があり、遺跡についての理解を深めて頂けたことと思っています。

普段はなかなか見学に来て頂く機会も少ないと思います。今後も各現場、調査の進行の状況に応じて、説明会を行いますので、その



上の写真は説明会風景です。

の機会には是非、足を運んで、守山の遺跡—歴史的な遺産—を身近なものとして知って頂きたいと思っています。調査担当者全員、そのような説明会ができるよう努めています。

### ≡ 埋蔵文化財センターからお知らせ ≡

#### ——特別展について——

8月14日(日)～21日(日)まで「最近の発掘調査展」というテーマで特別展を開催しましたところ、約200名程の見学者がありました。昨年の夏から1年間の調査で出土した土器や木器などを展示したのですが、守山市内各所で、どのような遺跡があるのか、また調査をしているのか知って頂けたら幸いです。

次回(※)の特別展は、11月初頃の予定で、「土器づくり」などの内容を考えています。詳細は、次号「玄貞」・「広報」などでお知らせします。——秋日のひととき、遠い昔の人々の生活にふれませんか?——

#### ——後記——

夏休みを利用して、中洲小学校の「親子土器づくり」が行われました。日頃、形のみを見て、つくることの大変さを見落しがちで、土器づくりのむずかしさを感じ取りました。

——秋の土器づくり、かえはってみたいと思います!——